

社会医療法人社団 千葉県勤労者医療協会・『慢性疾患対策研究所』  
(千葉健生病院附属まくはり診療所内)のご案内

## (I) 設立経緯

2002/4/1：船橋二和病院に於いて『慢性血管合併症研究所』の設立（船橋二和病院内）。  
《病理》故坪内弘行理事長、《内科》山本駿一（顧問）・土田弘基（所長）・鵜田純一（研究員）の体制で、腎臓病に於ける血管障害を中心に、日常臨床のお手伝いをしながら、臨床研究を開始する。

2006/4/1：千葉健生病院附属まくはり診療所 1階に移転。

2016/4/1：臨床研究と共に、千葉健生病院が幕張地区の「かかりつけ医病院：HPH(Health Promoting Hospital)<sup>#1</sup>」となるために、総括的な医療体制が構築できるように、社会医療法人社団・千葉県勤労者医療協会『慢性疾患対策研究所』と改名し、以下の体制<sup>#2</sup>で、HPH 達成に向かって資料（電子カルテ）整理に励んでいる。

#1：英国では、第二次世界大戦後、庶民が選んだ労働党政権が誕生。「ゆりかごから墓場まで」と言われた福祉社会の基礎や NHS（National Health Service:1948年に患者ニーズに対して、公平なサービスを提供することを目的として設立され、現在に至っている。）と言う無料の医療体制を作った。その延長となった HPH（WHO）である。即ち、住民の生涯の健康管理には整理保存された電子カルテが大きな役割を果たすので、慢性疾患対策研究所はその基礎作りをしている。

#2：《顧問》石川正己→岡田朝志、《所長》土田弘基、《健診部門・主任研究員》花井 透→山井太介、《悪性腫瘍・主任研究員》宮本忠昭、《心血管障害・主任研究員》土田弘基、《在宅医療・主任研究員》岡田朝志、《電子カルテ整備・主任研究員》浅田恭之、《画像診断部門・主任研究員》奥山 厚、《総合事務責任者》鎌田美保→児玉克朗、  
《特任臨床検査技師》岩下浄明、《事務員》土屋陽子

→ 2016年5月30日に、第一回業績報告会を実施。

## (II) 業務内容

### A 臨床研究：末期腎不全予防対策

#### ① 慢性糸球体腎炎の早期発見・早期適正対策

千葉県学校保健集団検診の一環として、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校および教職員を対象として、1988年度より、集団検尿を実施し、現在、32年経過している（千葉県腎疾患判定委員会・委員長：土田弘基）。全国で実施されている方式であるが、千葉県では全国に先がけて、県立高等学校を中心とした、第三次精密検査が取り入れられて成果を上げている。この様な努力の結果、日本透析医学会の統計資料に示されているように、末期腎不全に陥る原疾患の第一位を占めていた慢性糸球体腎炎が 30年の間に

60%から 16%に激減した成果が見られている。

**\*\* Masugi Nephritis and Its Immunopathologic Implications(共著)**

免疫病理学的疾患 (共著)

CHRONIC RENAL FAILURE-腎疾患医療の現場から (編著)

太郎くんの腎臓カルテ (共著)

慢性腎炎の生涯 (共著)

医学大辞典 (武見太郎 主幹) : 巣状糸球体腎炎、IgA 腎症、Berger 病 (分担)

医学書院・内科学 : 急速進行性糸球体腎炎。

**② 《糖尿病性腎症・腎硬化症》から《生活習慣病によるメタボ腎症》の早期診断と対策**

慢性糸球体腎炎による末期腎不全が激減したが反比例して、糖尿病性腎症+腎硬化症の生活習慣病による末期腎不全が 10%から 55%に増加してきている。

研究所の大きな目標は、この生活習慣病には肥満 (内臓肥満) を嚆矢とした高血圧・脂質異常・高血糖による (即ち、メタボリックシンドロームによる) 血管病変が引き起こす腎障害を『メタボ腎症』と自称して、臨床研究に精魂を込めている。

\* 土田弘基 : 末期腎不全予防対策 : メタボリックシンドローム腎症の提唱—千葉県立高校生検尿システム 20 年間の解析を基礎にして— 千葉医学 88 : 11~25,2012

\* Hiroki Tsuchida and Kiyooki Iwashita Metabolic syndrome nephropathy (early-diagnosis of intrarenal arteriosclerotic lesions by renal ultrasonography. Vasc Fail 2018;2:45-52

**B 日常臨床業務 : 慢性疾患患者のフォルダー作成 (2020 年 3 月 31 日現在)**

「慢性疾患患者」は、6600 人がリストに挙げられている。まくはり診療所に現在、定期受診されている患者さんは 3400 人。ほとんどの方は、まくはり町周辺に在住しています。それぞれの患者さんの電子カルテを、慢患事務局 (外来医事課 : 柴田琢次) と共同で整理してゆこうと努力をしております。これらのカルテを職員が共有し、質の高いカルテとし、最終的には、患者さんへの還元を計る予定です。この事が完成すると、《かかりつけ病院》の基礎が出来上がり、前述の HPH として千葉健生病院が特性を持った (厚生労働省が期待する) 病院に育ってゆくものと期待しております。

上記臨床研究を中心に置き、学会・研究会活動において、実績の報告と同時に、情報収集とその解析をして、職員への情報伝達は勿論のこと、社会に情報発信をしている。更に、職員の学術活動への協力を積極的に行っている。この様な研究活動は、全国の民医連病院に見られない組織であり、上記の内容を高め、継続 (現在、18 年半の実績がある) して、民医連病院のモデルになり得ると期待しております。